

「私たちの学校」づくり 軽井沢フォーラム 2025

定員 100 名

～軽井沢オープンスクール（仮称）設置に向けて～

軽井沢町は、子どもたちもまわりの人も、自分らしく学び合うことができ、自分たちが望む学校を自分たちでつくっていける「私たちの学校」を目指しています。

9月22日（月）13：00～15：00

場 所



軽井沢町
中央公民館
大講堂（2階）

参加無料

対象者

- ・町内小中学校の保護者の方
- ・軽井沢オープンスクール（仮称）に興味のある方（町内外を問いません）
- ・教育に興味のある方（町内外を問いません）

お知らせ

- ・軽井沢フォーラムに参加ご希望の方は下の二次元コードからお申し込みください。
- ・定員を超えた場合には町内の方を優先に抽選とさせていただきます。抽選にもれた方のみ、お知らせいただいた連絡先に連絡いたします。
- ・第1部クロストークは録画して、後日、町HP等で公開する予定です。
- ・ワークショップのグループ分けは、当日お知らせします。

その他

- ・軽井沢フォーラム終了後、1階講義室にて15:30～17:00まで、第4回軽井沢オープンスクール（仮称）設置準備会議が開催されます。事前申込みがなくても傍聴できます。

主催：軽井沢町教育委員会 後援：長野県教育委員会

申込みはこちらから



申し込みフォーム

申込み：9月12日（金）まで

問い合わせ先

軽井沢町教育委員会 とも教育課

軽井沢高校・教育魅力化推進係 担当：金井・桐野・根津

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2353 番地 1

電話：0267-45-8672 mail：miryokuka@town.karuizawa.nagano.jp

当日のスケジュール（予定）

第1部 クロストーク

13：00～13：50

「軽井沢町の教育に期待すること」をテーマに軽井沢オープンスクール（仮称）設置準備会議座長の荒井英治郎さん、同委員の木村泰子さん・西野博之さんと軽井沢町教育推進アドバイザーの内堀繁利さんがトークを展開します。

第2部 ワークショップ

13：55～15：00

第1部のクロストークの内容や「私たちの学校」をつくるアンケート結果を参考に、参加者の皆さんが小グループになって意見交換を行います。

第4回軽井沢オープンスクール（仮称）設置準備会議

15：30～17：00

軽井沢町中央公民館講義室（1階）

第1部クロストーク ゲスト等の紹介



ゲスト 木村 泰子

大阪市立大空小学校
初代校長

【経歴】

大阪府生まれ。2006年に開校した大阪市立大空小学校の初代校長を9年間務める。大空小学校では「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちとともに障害の有無にかかわらず、すべての子どもがいっしょに学び合っている。2015年には大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画「みんなの学校」が公開され、大きな反響を呼んだ。この映画は文科省の特別選定作品にも選ばれ、現在も全国各地の教育現場などで自主上映されている。2015年春に、45年間の教員生活を終え、現在は講演活動やセミナーで全国の人たちと学び合っている。



ゲスト 西野 博之

認定 NPO 法人
フリースペースたまりば
理事長

【経歴】

1986年から不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりに関わる。1991年、川崎市高津区に「フリースペースたまりば」を開設。1998年から川崎市子ども権利条例調査研究委員会の世話人として条例策定に関わり、その具現化を目指した「川崎市子ども夢パーク」の開設に尽力。2021年まで15年間その所長を務めた。文部科学省「フリースクール等に関する検討会議」委員など数々の公職も歴任。NHKをはじめとするメディアにも多数登場。

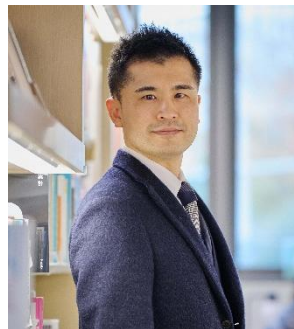


ゲスト 内堀 繁利

信州大学教育学部
特任教授
(軽井沢町教育推進
アドバイザー)

【経歴】

小学校入学式の日に「おら、学校の先生になる！」と両親に言って以来、教職を目指す。大学卒業後、公立高校教員。その後、県教育委員会主任指導主事、軽井沢高校長、県教育委員会高校教育課長等を経て、上田高校長としてSGHを核とした「パッケージ」としての学校改革に取り組み、2018年定年退職。退職後は、県教育委員会高校教育改革推進参与、同推進役、2022年からは教育長として、探究を核とした学びの改革の推進、第4次県教育振興基本計画の策定などを行う。2024年6月から信州大学、10月からは軽井沢町で現職。中央教育審議会・全国知事会委員、高校生マイフロアワード全国サポーター等も務める。



ファシリテーター 荒井 英治郎

信州大学教職支援センター
准教授

【経歴】

東京大学大学院教育学研究科を経て、2016年から現職。同センターの地域連携部門長も務め、学校や教育委員会が直面する課題解決や地域連携・協働・共創の促進のサポートを行っている。「学校組織の健康診断」として、「活き活き×やりがい職場調査」の開発に携わり、「働きがい」と「働きやすさ」の両立を目指して、組織を「見える化」し、対話の文化を醸成していく働き方改革の伴走支援を行っている。「信州型フリースクール認証制度」の制度設計など、多様な学びの場の創造を通じて、公教育制度の在り方を問い直す調査研究を行っている。信州学び円卓会議座長など多数の社会貢献活動を行っている。

軽井沢オープンドアスクール（仮称）とは？

長野県教育委員会は令和6年度「信州オープンドアスクール（仮称）創造会議」を主催し、多様性を包み込む長野モデルの論議を深めた。長野県初の「学びの多様化学校」と「夜間中学」の併設等により、「多様なニーズを包括したインクルーシブでフレキシブルな学校」を創造するというもの。この理念に共感した軽井沢町は、町の抱える教育課題の解決に向けて、年齢や国籍、社会的立場などを超え、誰もが自分らしく他者と学び合い、成長することができる「軽井沢オープンドアスクール（仮称）」を設置することを同年10月、県内で初めて表明し、令和9年4月開校を目途に、現在設置準備を進めている。

「私たちの学校」づくりとは？

軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議における議論や新しい学校づくりの理念・仕組みなどを既存の町立学校にも導入することで、さらなる魅力化を図る取組も始めた。軽井沢町では、この軽井沢オープンドアスクール（仮称）の設置と既存の学校のさらなる魅力化を並行して行う取組全体を『私たちの学校』づくり」と名付けている。